

〈ディレクトフォース〉

東京大学、企業大学訪問は、IEA 事務局長であり、笹川平和財団理事長の田中伸男さんからお話を伺うことから始まりました。知っていたようで知らなかった世界のエネルギー事情を知ることができておもしろかったです。例えば、IEA と OPEC は敵対の関係であるということ、それぞれの機関については知っていても、それを関連づけて考えるということはしたことがありませんでした。

色々なお話のなかで、一番印象に残った言葉があります。それは、「石油の時代は石油がなくなったら終わるのではない」という言葉です。一瞬意味がわかりませんでした。化石燃料に依存している今の世界で石油が必要ではなくなるなんてことがあり得るのかと思いました。詳しく聞くと、電気自動車などの普及などが理由で、石油のいらぬ世界がくるかもしれないということでした。石油がなくなるなくなるということしか聞いたことがなかったので、新しい考えでとてもおもしろかったです。

田中さんのお話が終わり、グループ毎のディスカッションに移りました。4 人の方からお話を伺いました。

1 人目の信氏さんは、社会人 1 年目ということで、割と近い視点からお話をすることができました。主に、勉強のことについてお話しして下さいました。信氏さんは、勉強において一番大切なことは、勉強の習慣を身に付けることとおっしゃっていました。しかしそれはもちろん何度も聞いたことがあることでした。知っていたけど、行動に移せていないことです。やはり勉強の習慣を身に付けることは大切だと再認識できたので、行動に移す努力をしようと思いました。

2 人目、吉田さんからのお話です。世界中を飛び回った方でした。世界中を飛び回ったからこそ日本が一番良い国だとおっしゃっていました。詳しくは、日本は安定社会であり、労働社会である。そして、平等だということでした。また、有名な「おもてなし」という、日本にずっといては感じることでできない当たり前のことは、外国では当たり前ではないということでした。そんな真面目で勤勉な日本人の欠点は、自分がないところだとおっしゃっていました。集団依存性が強く、優柔不断。このような欠点もありますが、吉田さんが、今の日本の若者の使命は、日本人の共生の心を世界中に広めていくことだとお考えになっているそうです。このお話を聞いて、日本は世界に誇れる国だと改めて感じました。

3 人目の酒井さんのお話です。酒井さんは、海洋研究をされていますが、そのような研究は最初は全くやる気がなかったそうで、流れでそうなった、という感じだそうです。しかし、それまで学んできたことは、全く関係なく、無駄という訳ではないそうです。また、それまで学んできていない研究にシフトするにあたって、色々なものに好奇心を持ち、どんどん新しいことを吸収していくことが大切だとおっしゃっていました。専門的に物事を学んでも、その範囲に居続けるのではなく、自分の幅を広げ、柔軟性を持って自分を対応させていくことが大切なんだなと思いました。

最後は、石川さんからお話を伺いました。石川さんは、外国を飛び回った方でした。新しく行く地では、やはり「言葉の壁」があったそうです。そんな中でも相手と対等にコミュニケーションをとるために大切なことがあるそうです。1 つ目は、情報収集をすることです。2 つ目は、その情報を元に分析すること。3 つ目は、その分析をもとに戦略を立てることだそうです。また、この他若者に必要なことは、その場その場の歴史、地政学を知り、時代を知ることと、愛を持つ

ことだそうです。コミュニケーションに関する3つのことは、考えたこともありませんでした。やはり、上に立つ人というのは意識の持ち方が違うんだなと思いました。4人の方を通してとても仕事を楽しんでいるなと感じました。それぞれ内容は違うけど、自分のやるべきことに好奇心を持ち、そしてその内容について極めるやり方は、みなさん同じでした。

〈企業・大学訪問〉

1日目の午後、班毎の企業訪問、私の班は国立感染症研究所に行きました。世界中の感染症について詳しく説明していただき、わかりやすくとてもおもしろかったです。特におもしろかった内容は、インフルエンザワクチンについてです。実際、インフルエンザワクチンをして、インフルエンザの感染は防げないということです。どういうことかということ、ワクチンは、体内に入ります。そのため、インフルエンザウイルスの抗体は体内でしか作られません。しかし、ウイルスは喉などの粘膜に付着するので、そこに抗体がなければ感染は防げないのです。だから、今は感染自体を防げるようなスプレータイプのワクチンを開発しているそうです。今まで何度かインフルエンザワクチンの注射を受けたことがありますが、どういう役割を果たしているのかはよくわかっていませんでした。そして、私のように意味をわかっていない人も少なくないと思います。こんな有名なワクチン1つにしても、正しい情報が完璧に浸透してわけではないんだなと思いました。そしてもう1つ、「痘そう(天然痘)」という感染症についてです。今、このウイルスは世界中に存在しないと言われていたそうです。私はこれを聞いたとき、そんなことがあるのかと驚きました。根絶できたのには、いくつかの理由があるそうです。1つは、動物には感染せずに、人間にだけ感染することだそうです。2つ目は、ウイルスに感染したら必ず症状があらわれることだそうです。3つ目は、とても良いワクチンが開発されたこと説明を聞けば納得できて、とてもおもしろかったです。

〈二高 OBOG の方々との懇談会〉

ホテルに戻り夕食を終えたあと、二高 OBOG の方との懇談会がありました。これでは、私の考え方が変わったというか、逆に今の考えている進路に迷いが生じたというか、とにかく新しい考えを取り入れることができました。まず、理系だったのに文系学部に行った方が数人いたことに驚きました。その中の1人に、起業している方がいらっしゃいました。その方は、授業にあまり出席していなかったそうです。それが良いのか悪いのかは置いておき、そんな経験から感じたことをお話しして下さいました。私たちは、見かけと実質の見分けがついていないといいます。例えば、授業1つにしても、寝ていたり、集中していなかったりしたら何の意味もありません。しかし、「授業に出た」という事実だけで満足してしまって、錯覚していると言われました。確かにそうだなと思いました。また、その方は、日本文化を海外に広めたいという気持ちで会社を始めたそうです。見かけと実質見極め自分にとって何が得かを考え、また、強い信念を持って行動されており、とてもかっこよく憧れるなと思いました。起業などは無理だとしても、見かけと実質の見極めは本当に大切だと思いました。また、他の方は、勉強のやる気がどうしても出ないときにはどうしたら良いか?という質問に対し、勉強は、やるしかないとおっしゃっていました。本当にそうだなと思いました。いつかはやらなければならないし、やる気が出なくても逃れられない。当たり前のことだけど、東大の方が言うときつい言葉に感じました。たった2日間の研修でしたが、考え方がとても変わりました。まだ進路を確定させなくても良いし、決めたとしても本当にその職業に就くかというのは、ギリギリまでわからないんだなと思いました。今の時点では目の前のことに精一杯取り組み、日々を積み重ねていくことが大切であり、そらしかできないと思いました。